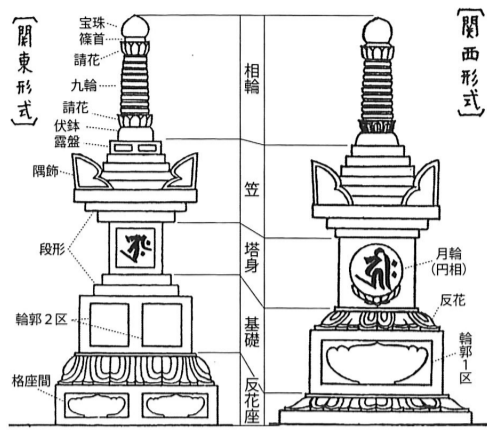


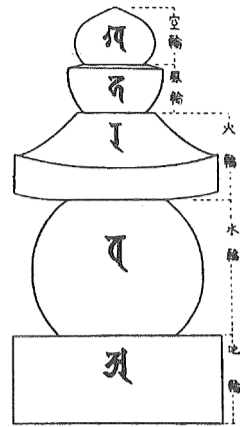
1. 神奈川県内の石造物の種類と概要

- ・神奈川県に現存する中世石造物は数万基、数十万基とも言われる。
- ・県内の中世石造物の種類には宝篋印塔、五輪塔、層塔、宝塔、板碑、無縫塔のほか、石仏（逗子市神武寺弥勒菩薩）、石灯籠（厚木市熊野神社）など多岐に渡る。



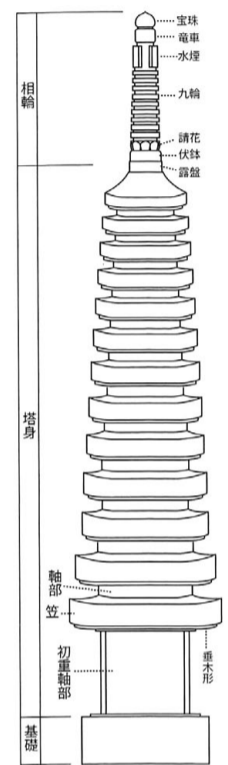
宝篋印塔

本来、『宝篋印陀羅尼經』を納入する塔。經の納入に関わらず、この形式の塔を宝篋印塔と呼称する。源流は中国。呉越王錢弘俶がインドの阿育王による八万四千塔造塔の故事に倣って金属製の塔（金塗塔）を各国へ送ったのがはじまりとされる。川勝政太郎の提唱する「関東形式」「関西形式」がある。最古例は京都府旧妙真寺塔、清水寺塔、高山寺塔など。神奈川県最古例は箱根塔、つづいて足柄郡大井町余見塔。



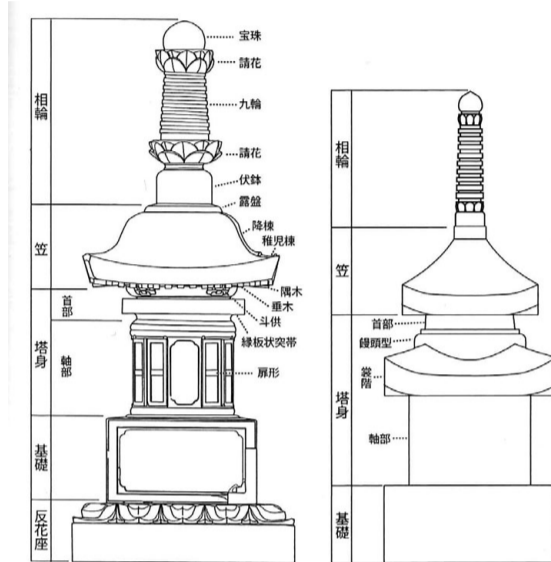
五輪塔

空・風・火・水・地の五輪で構成される塔。大日如来の三昧耶形として造立。日本で石造化。舍利信仰。最古の例は岩手県平泉釈尊院の仁安四年（1169）塔。「西大寺様式五輪塔」と呼ばれる大型の塔が存在。神奈川県最古例は箱根虎御前塔。つづいて鎌倉極楽寺忍性塔。



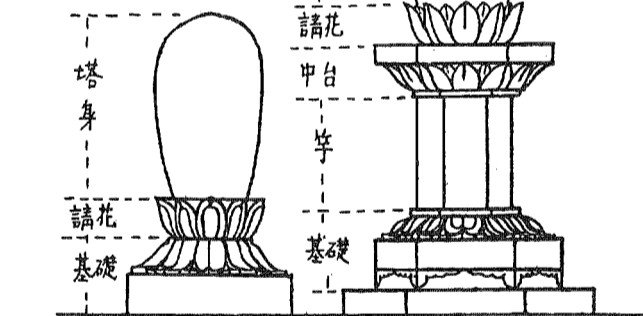
層塔

五重塔などの木造塔と同義。石造塔の中では最も歴史が古く、七世紀前半に造られたという滋賀県石塔寺三重塔が最古例。大きなものでは15mを超える（京都府浮島塔）。神奈川県内では湯河原町城願寺塔が嘉元二年（1304）で最古。ほか箱根町賽の河原塔が銘文を有し正和三年（1314）。



宝塔・多宝塔

『法華経』『見宝塔品』第十一に由来する多宝・釈迦二仏並座の塔。大日如来の三昧耶形としての造塔も。木造大塔と同義で、木造最古は高野山の弘仁十年（819）があり、石造では保元元年（1120）の京都府鞍馬寺塔が古例となる。この塔のように経塚の標識を兼ねる塔も存在。神奈川県内の古例は無銘ではあるが型式から判断して鎌倉別願寺塔。

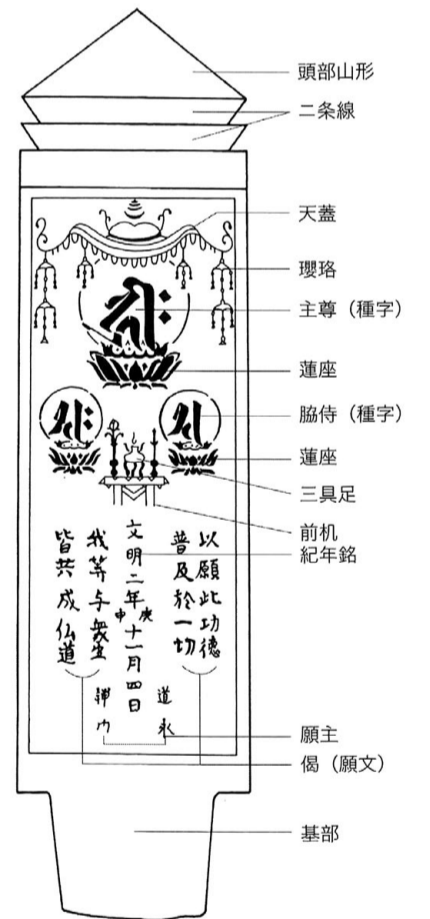


無縫塔

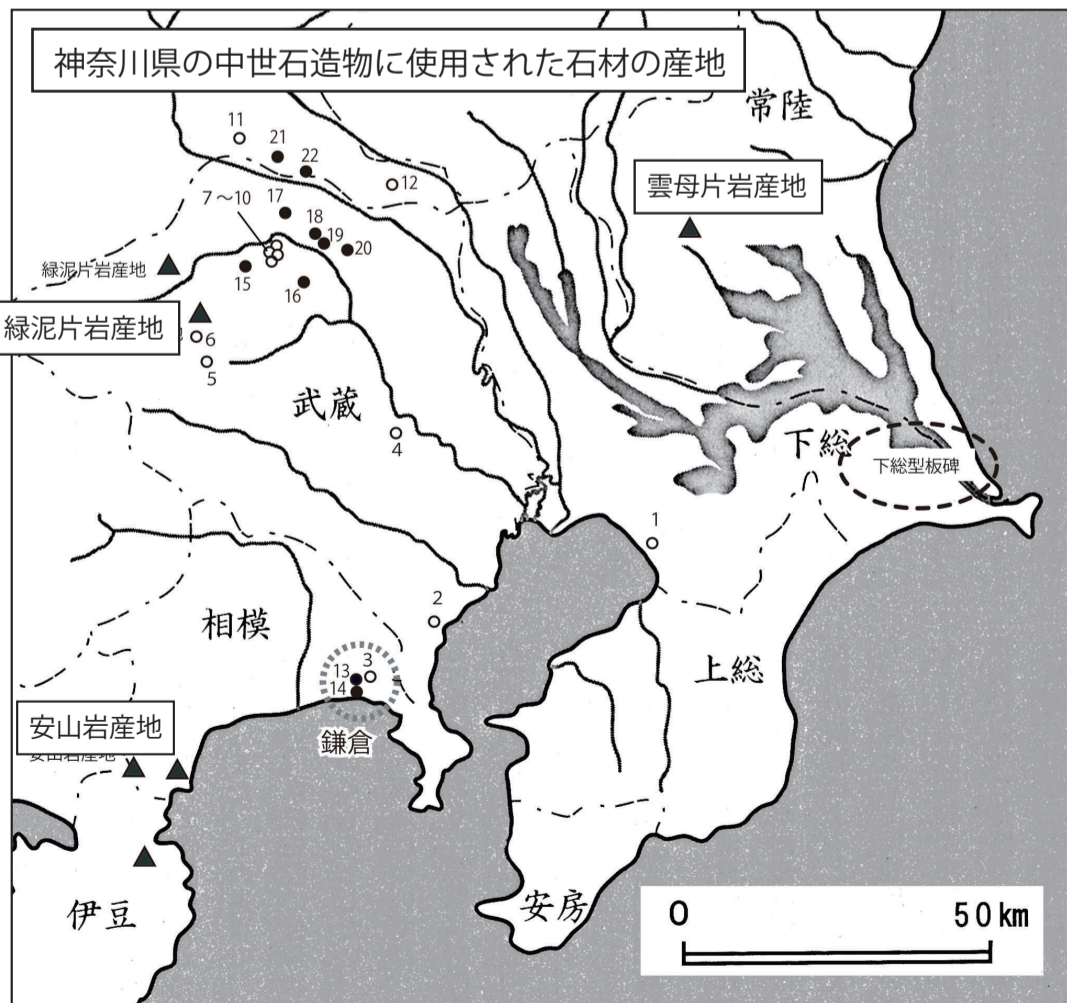
僧侶の墓塔。縫い目がないという意味。卵塔とも。重制と単制がある。鎌倉時代初期に入宋した僧侶により伝えられた。最古例は京都府泉涌寺の開山塔で安貞元年（1227）ごろの造立。二番目に古い例は鎌倉の建長寺開山塔。神奈川県内ではほかに鎌倉覚園寺歴代塔、鎌倉雲頂庵歴代塔がある。

板碑

起源は「五輪塔」や「碑伝」など諸説あり、最近では「幡」説も。「板石塔婆」とも言われる。関東では秩父で産出する緑泥片岩を使用した武蔵型板碑が主流。神奈川県内では県内で産出される伊豆・箱根系安山岩を使用した相模型板碑がある。最古例は埼玉県須賀広弥陀三尊板碑で嘉禄三年（1227）。神奈川県では鴨志田板碑で寛元二年（1244）の銘がある。



(図版は川勝 1998 坂詰 2011 より)



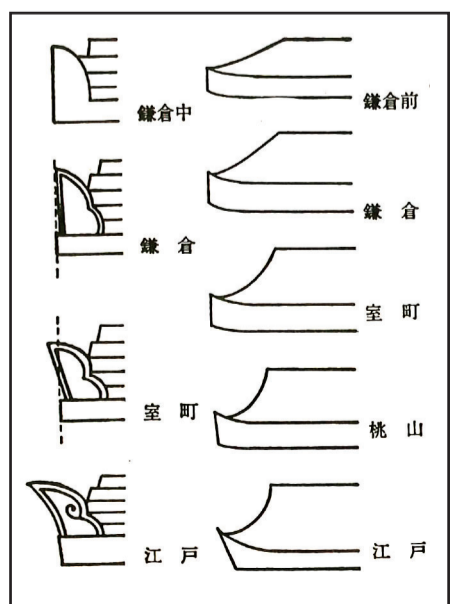
(村山 2013 より転載一部改変)

2. 県内の中世石造物に使用される石材

- ・県内産出
 - 伊豆箱根系安山岩（伊豆石）
 - 第三紀層三浦層群凝灰岩（鎌倉石）などが主体。
 - ・流通する石材
 - 緑泥片岩（埼玉県秩父）…武蔵型板碑
 - 雲母片岩（茨城県筑波山周辺）…下総型板碑（光明寺所在板碑）
 - 上野天神山凝灰岩（群馬県）…東漸寺五輪塔三基など。
- これらの移動には水運が用いられたようで、河川流域に多く残存する。

3. 年代判定の方法

- ・紀年銘と型式から判断。
- ・紀年銘が無ければ、型式のみから判断。
- ・型式は全国編年を使用。
- ・各部材の様相を総合して塔の年代を判断。



(川勝 1967 より)

4. 相模への石造物の流入

- ・東大寺復興事業以降、奈良に宋人石工が定住。各地で石塔を造立する（伊氏）。
- ・同じ系譜とみられる大蔵氏が関東へ下向。定着する。

○平重衡による南都焼き討ち

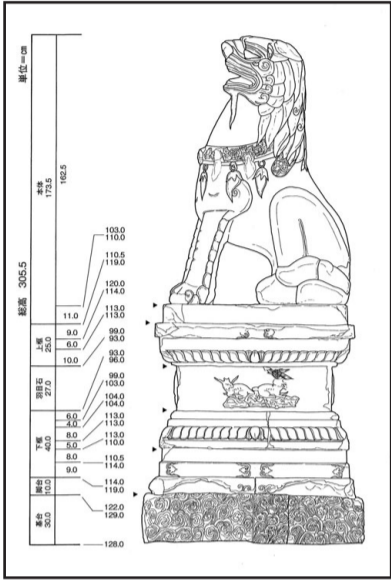
↓ (治承四年 1181年 1月)



○東大寺復興 (1181年 4月)

- ・宋から石工を招聘
- ・当初石材は中国から輸入

建久七年 (1196)、中門石獅々、堂内石脇土、同四天王、宋人字六郎等四人造之 (後略)



東大寺南大門
石獅子
(中日石造物研究会
2010より転載)

梅園石

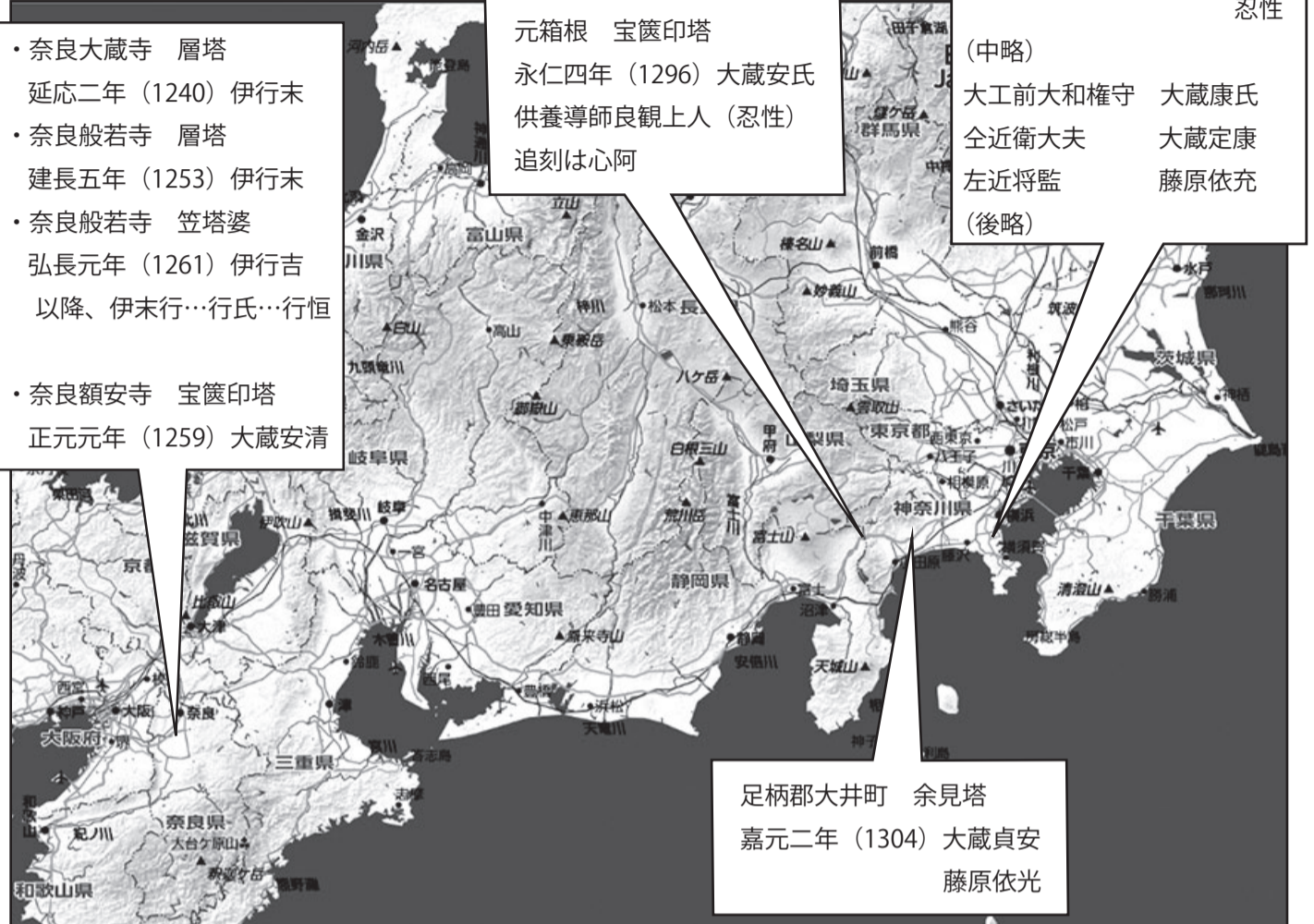
中国浙江省寧波市郊外に分布する凝灰岩。
日本や朝鮮半島に石造工芸の材料などとして輸出。

宋人石工による畿内での石造物の造立 (奈良西大寺末の寺院・僧に関連した造塔)

- ・奈良大蔵寺 層塔
延応二年 (1240) 伊行末
- ・奈良般若寺 層塔
建長五年 (1253) 伊行末
- ・奈良般若寺 笠塔婆
弘長元年 (1261) 伊行吉
以降、伊末行…行氏…行恒
- ・奈良額安寺 宝篋印塔
正元元年 (1259) 大蔵安清

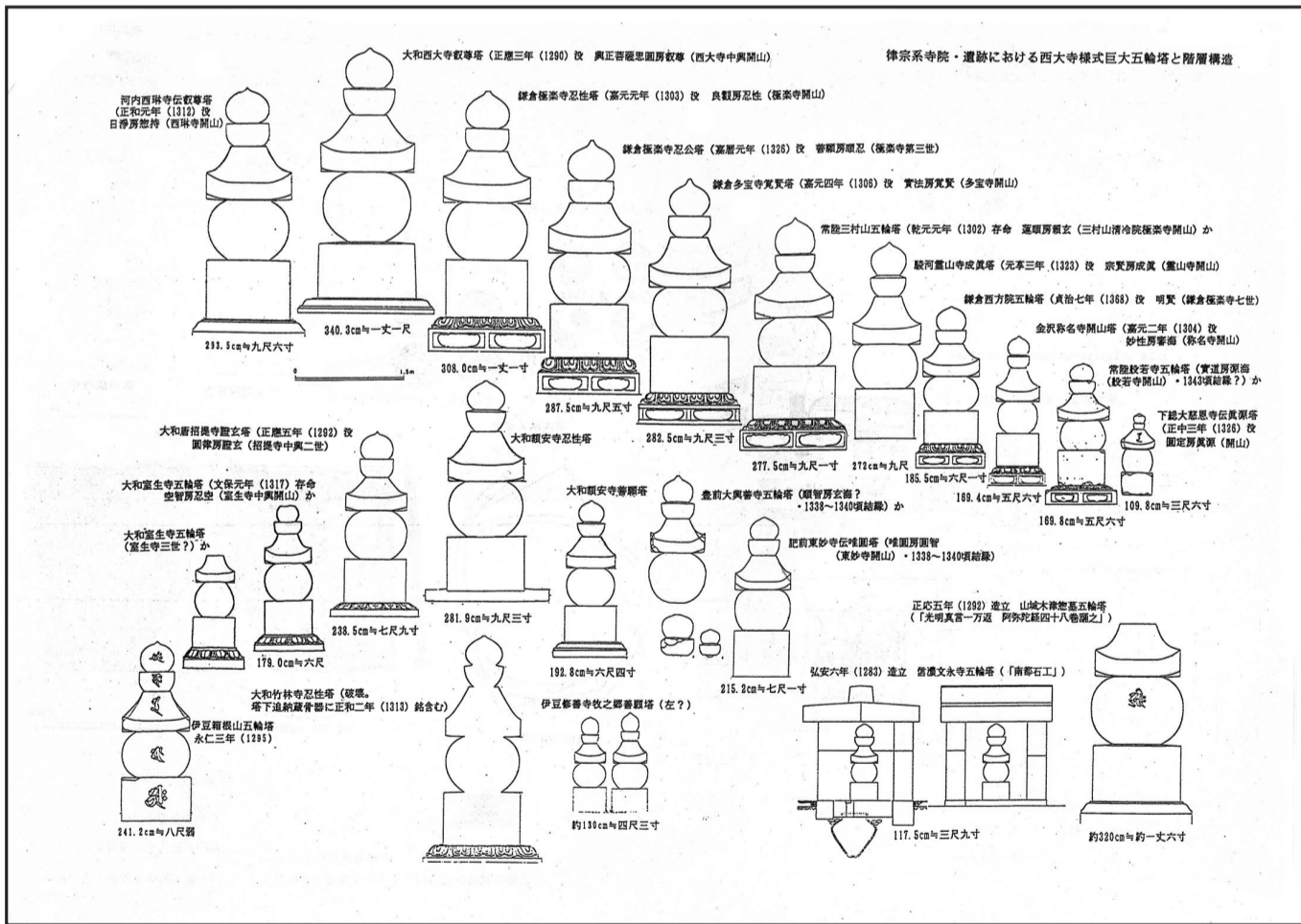
- 元箱根 宝篋印塔
永仁四年 (1296) 大蔵安氏
供養導師良観上人 (忍性)
追刻は心阿

- 金沢称名寺「堂供養書」
正応四年 (1291)
供養導師□□□□住持比丘
忍性
(中略)
大工前大和権守 大蔵康氏
全近衛大夫 大蔵定康
左近将監 藤原依充
(後略)

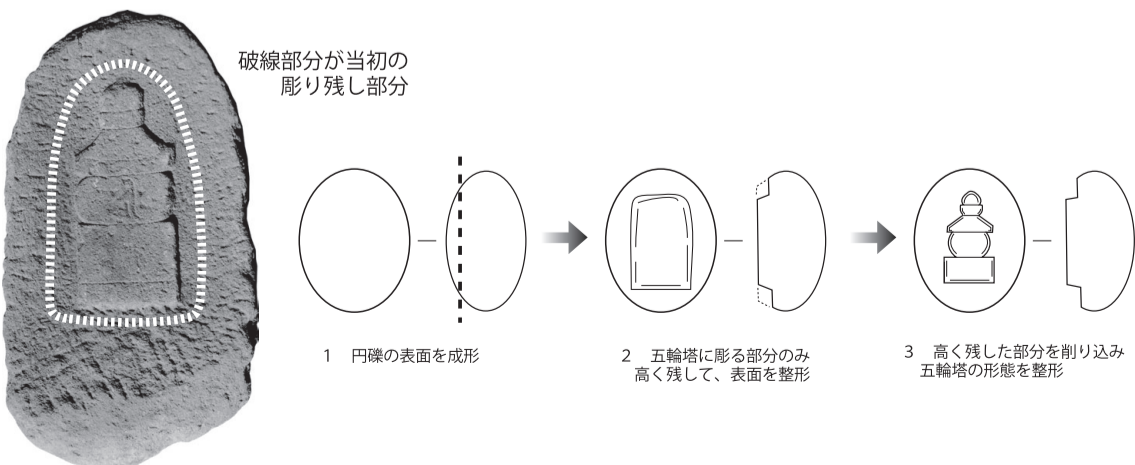


- 足柄郡大井町 余見塔
嘉元二年 (1304) 大蔵貞安
藤原依光

西大寺様式五輪塔 (桃崎 2000より転載)



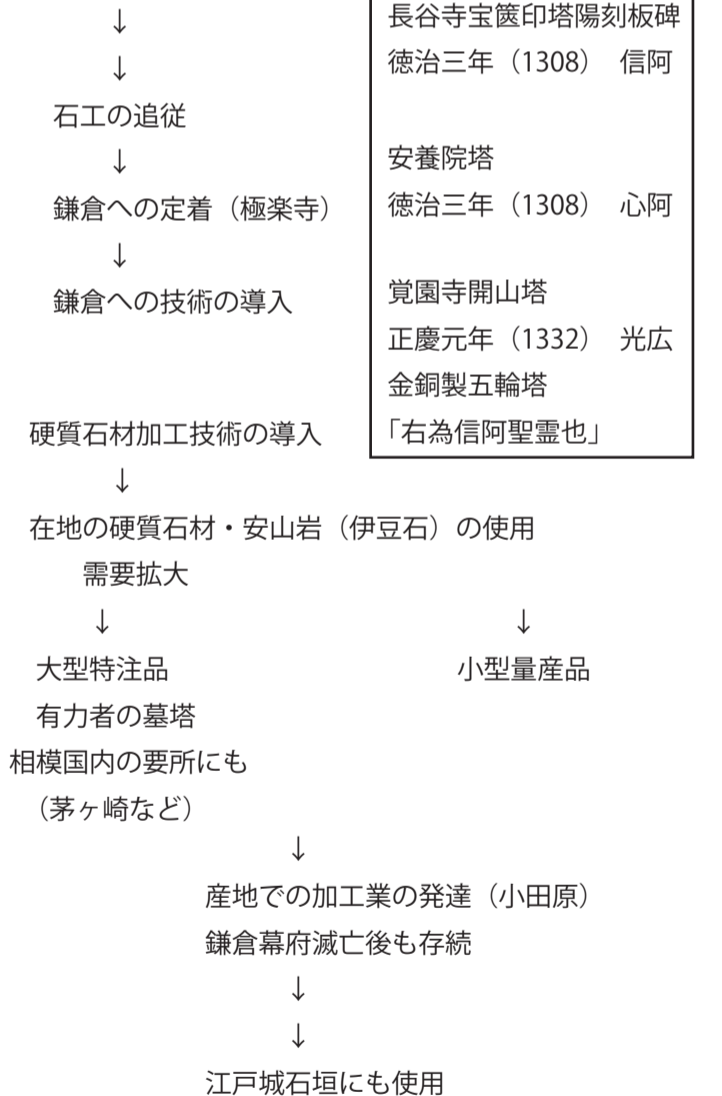
浮彫五輪塔の作成手順 (村山 2013より転載)



破線部分が当初の
彫り残り部分

- 1 円盤の表面を成形
- 2 五輪塔に彫る部分のみ高く残して、表面を整形
- 3 高く残した部分を削り込み五輪塔の形態を整形

布教のため西大寺律僧が関東進出

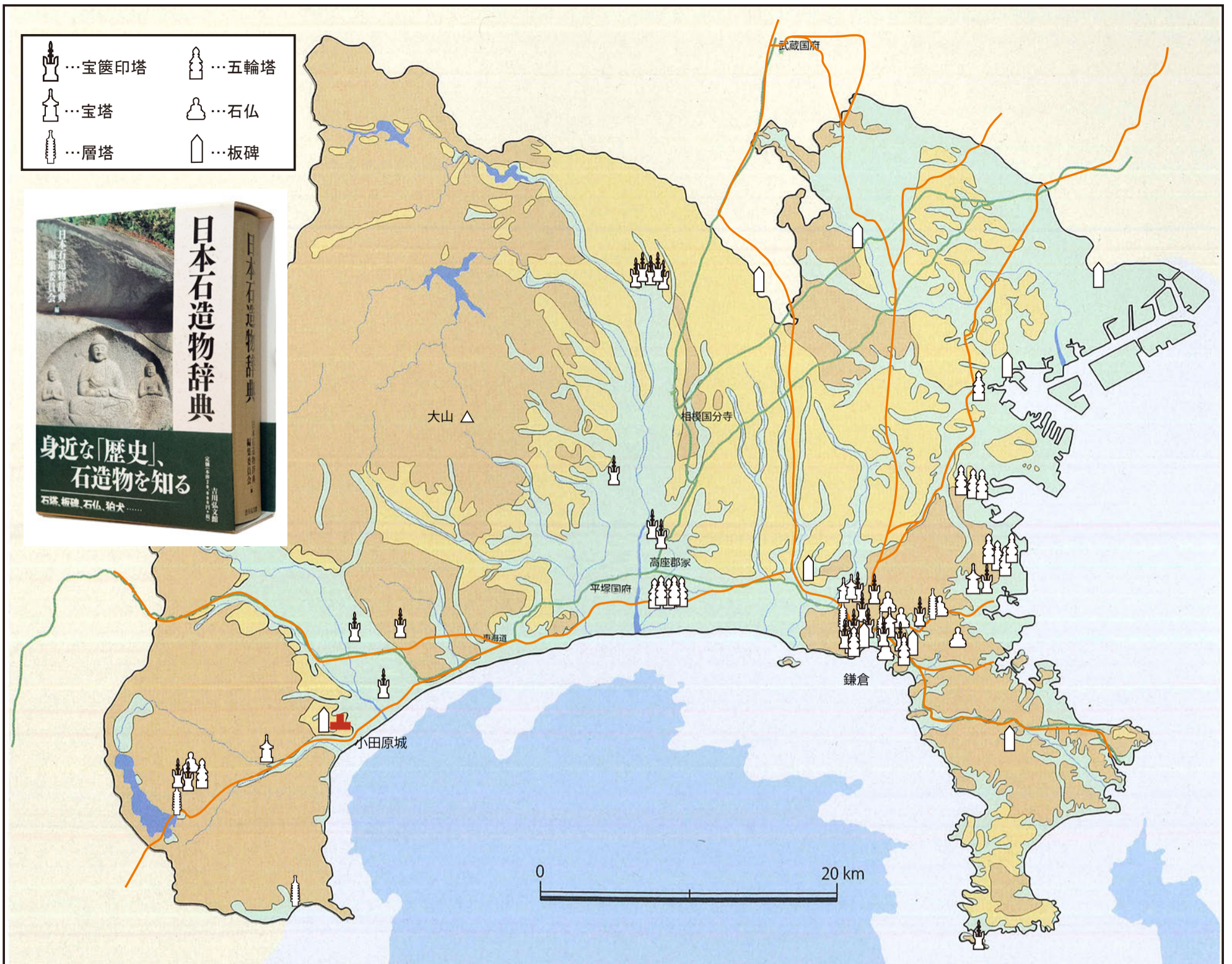


- 長谷寺宝篋印塔陽刻板碑
徳治三年 (1308) 信阿
- 安養院塔
徳治三年 (1308) 心阿
- 覚園寺開山塔
正慶元年 (1332) 光広
- 金銅製五輪塔
「右為信阿聖靈也」

参考文献

川勝政太郎 1967 『石造美術入門』 社会思想社
 川勝政太郎 1998 『日本石造美術辞典』 東京堂出版
 桃崎祐輔 2000 「忍性の東国布教と叡尊諸大弟子の活動
 ー関東西大寺末寺の東国的変容に注目してー」 『叡尊・忍性と律宗系集団』
 山川 均 2006 『石造物が語る中世職能集団』 山川出版社
 中日石造物研究会 2010 『石造物を通じて見た寧波と日本』
 坂詰秀一編 2011 『石造文化財への招待』 ニューサイエンス社
 編集委員会編 2012 『日本石造物辞典』 吉川弘文館
 古田土俊一 2012 「中世前期鎌倉における五輪塔の様相」
 『考古論叢神奈河』 第20集 神奈川県考古学会
 村山 卓 2013 『板碑から中世鎌倉を考える』 NPO 法人鎌倉考古学研究所

神奈川県内の著名な中世石造物（『日本石造物辞典』より）



鎌倉周辺の大型中世石造物（鎌倉最大範囲の儀礼（鎌倉の範囲）の中に大型石塔が濃密に分布している）

